

## 第2回 ごみ処理センター建設適地選定委員会議事録 抄録

平成18年11月2日(木)午後1時30分～3時11分 津山市役所 2階 第2委員会室

出席者委員 : 花村哲也(学識)・鈴木茂之(学識)・山田正昭(学識)  
(11名) 岡本英二(地域代表;美咲)・岡本良市(地域代表;勝央)  
神原吉男(地域代表;西粟倉)・坂本道治(地域代表;津山)・  
松原 晃(地域代表;奈義)・山崎克己(地域代表;鏡野)  
安東伸昭(公募)・浦島文男(公募)

事務局 : 吉田室長・仁木参与・上高参事・山口主幹・西村主任  
美作県民局(早瀬・池上・上原)  
津山市、美作市、勝央町、奈義町、鏡野町、美咲町

- ・ 開会
- ・ 委員長挨拶

事務局;(1)委員の交代について、鏡野町から山崎克己委員を選出。

(2)第1回委員会について、資料『委員会議事録抄録』を説明。

(3)公募の実施状況について、8/31/開催の適地選定委員会での審議・決定を受けて、新聞広告を行った上で9/15～12/15の期間で公募に着手。同時にブロック協議会の関係市町村(2市4町1村)のホームページに要領を掲載し、窓口設置も行っている。また、広報掲載や、津山市ではPRビデオを作製し、市役所において放映をしている。さらに役所で開催される自治会会議においても時間をいただき協力をお願いをしている。募集開始早々から10件を超える問合せがあるが、今のところ実際に応募されたところはまだなし。

(4)傍聴について、8/31開催の委員会において5名と決定したが、住民の関心も高い事案であり、会場都合にもよるが10名まで拡大したいと思うがどうか。

委員長;傍聴については協議事項になるが、(1)～(4)について意見あるか。

(意見なし)～承認～

続いて協議事項だが、前回委員会において選定に入る前提として当該地域の基本的なごみ処理の現況の把握および共通認識が必要ということで、勉強会としたいと思うがどうか。

(よろしい)

協議事項『(1)ごみ処理の現状について』を事務局より提案をお願いする。

事務局;(1)ごみ処理の現状について、冊子【津山・英田圏域一般廃棄物処理基本計画(概要版)】を説明。

委員長;P16のH22年時点でのごみ減量目標値達成後の施設規模として、リサイクルプラザ50t/日、可燃ごみ処理施設170t/日程度とあるが、ごみの発生量の現在のデータはあるか。

事務局;P3にごみ発生量の表を掲載している。また、P4に中間処理量の表中に、H14年の年間量として焼却量、リサイクル量等を掲載している。

委員;P3では平成12年以降ごみの発生量が横ばいだが、P10のごみ排出量の将来予測では増えるという資料になっている。将来増加することに疑問だがどうか。

事務局;生活水準の変化により増加する。具体的には消費者の食品衛生の向上を図るということで、トレイ、ラップ、包み等の増加、或いは、パソコンの普及で用紙の大量使用などによる。人

口やごみ量の将来予測はトレンド法により算出。予測値としては過去が微増傾向にあり、そうした数値が導き出された。

委員；問題は排出量でなく、出たごみを如何にリサイクルして資源化していくかということ。

事務局；資源化に関してはP 1 2の図1 1、1 2に記載している。トレンド法で予測したH 2 2年の数値が1人1日あたり9 5 1 gであるが、目標値として8 2 5 gに排出を抑えるというもの。実際今も努力をいただいていることもあり、将来の目標として1人1日あたりの排出量は減るというものを示している。

委員長；説明のように、削減努力を行なった結果として目標の数値が達成できるということだが、ごみの排出量の現状はどうか、削減目標に対して近づいているのか。

事務局；例えばP 4で、この調査の段階で津山市では、H 9年で1 8 . 7 %のリサイクル率がH 1 4年では2 0 . 1 %となっている。圏域全体でも1 5 %が1 8 . 8 %まで伸びている。基本計画はH 1 4年を基本に作成しており、それぞれ目標に向け努力をいただいている。

委員；データが古いと思う。資料にならないのではないか。

事務局；ごみ処理基本計画というのは、作成後概ね5年で見直すとしており、その間でも特に情勢が変化した場合には見直すとしている。この計画はH 1 1年作成後、H 1 6年に作成したが、説明のとおり精査していきたい。

委員長；精査については努力していただけると思う。現在、住民のみなさん及び市町村の努力によりリサイクル率が上がっているが、今後もその努力を継続した結果、H 2 2年の目標が達成されるであろうということだ。ただ、委員から指摘があったとおりH 1 4年ではデータが古過ぎる。新しいデータを次回に出していただきたい。

事務局；精査について努力する。基本的には、H 1 3年5月に国から『廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針』が出ている。これはH 1 7年5月に改正されているが、その中で、一般廃棄物にしても産業廃棄物にしても、資源の循環型社会を目指したごみの排出抑制と資源化を基に進めていくという考え方がある。これにH 9年の排出量に対してH 2 2年が排出を5 %削減するという目標がある。リサイクル率については、H 2 2年を2 4 %とした目標があるが、圏域としては地域によって多少前後するが、2 7 %の目標を立てたということだ。

県民局；廃棄物行政は、これまでリサイクルを主体に減量化に向け取り組んできたが、国もリサイクルの限界をある程度感じている。ごみ量は社会経済の状況等いろんなことで変動する。H 9は津山市がごみ袋の有料化に踏み切った年ではなかったか。P 3の図3を見ると、有料化にすると1人あたりの発生量は減っている。しかし有料化に慣れてくるとまた増えてくる。また、ごみ非常事態宣言等を発令し分別等をお願いすると、やっとな横ばいという状況である。このように施策等によってかなり影響される。ただし、市民生活を維持するために、どのくらいのごみ処理施設を設置する必要があるかについて、適正な規模を算定するのは非常に重要な要素になる。一口にごみといっても、プラスチック主体かどうかにより発熱量がずいぶん違い、同じ1 tのごみでも処理方法が違ってくる。そうした技術的な面からも専門的な検討を加えた上でどういう計画を進めるかが大切。これまで津山市がいろんな施策を行い、環境省が進めてきた結果、こういう状況にあるということを理解の上で議論を深めていただきたい。

委員長；手に入るもので、新しいデータをお願いする。

委員；P 2に津山・勝英振興局内の5組合が2組合へとはどういうことか。

事務局；市町村合併によるものだが、現在存続しているのが津山圏域西部衛生施設組合と、津山圏域東部衛生施設組合の2つの組合ということである。

委員；土地が決まらないのに技術的なことを議論するのはどうか。現段階で公募数はどうか。

事務局；正式な申請は今のところなし。

委員；土地が決まらないのに、処理方法や減量化等ばかり議論しても仕方がないのではないか。

委員長；今の意見はごもっともだが、ごみがどれだけ出てくるか計画的に考えるのも必要。

委員；しかし、土地が決まってアセスから完成まで6年ある。その間にそうした議論はいくらでも出来る。土地の選定を一番にやらないといけない。

委員長；公募については現在進行中で、10件ほど問い合わせがあり、今はないが申請があるものと思う。今後それらの中から場所を選定していくことになるが、総合的にどういうものが必要かということも議論しておく必要があると思う。今日の趣旨は、いろんなデータを共通で認識しようという勉強会であり、決して無駄にはならないかと思う。

委員；この場におられる方々は、それなりにごみ問題に対して認識がある方ばかり。どれだけの量が排出され、どれだけの規模の施設が必要かについては事務局がきちんとすると思う。応募がないのであれば応募があるようにもっと働きかけることが必要。

委員長；ただ今の意見は、次の事項で議論したい。

委員；P6の最終処分量についてだが、毎年このような割合になるのか。

事務局；この表は埋立物の内訳で、凡そだが全体の60%が焼却灰である。

委員；P6の説明にある『対象物のうち半分が自区域外へ搬出』とはどういうことか。

事務局；例えば、津山市ではH17年度の焼却量が24,952tで焼却灰が3,634tとなっているが、その全てを持ち出している。

事務局；P6の説明の『半分』というのは、津山ブロックに6施設あって、そのうち3施設が圏域外に持ち出しているということである。

委員長；この説明については、分かりやすく次回報告をお願いする。協議事項(1)ごみ処理の現状について、承認いただけるか。

(よろしい)～承認～

委員長；(2)応募について、意見を求める。

委員；灰聞いたのだが、共産党の議員から事務局に何かしら提案があったように聞いたがどうか。

委員；公募に関する問い合わせが10件ほどあったようだが、どのような内容か。

委員；問い合わせ内容を聞いてどうするのか。

委員；可能性があるかどうかを知りたい。

委員；応募というのはそういう問題ではないと思う。応募とは『ここに出来るからやってください』というのが応募である。問い合わせがあるからといって、こちらが出来る・できないを決めることにはならない。もっと真剣に考えないといけない。津山は以前から逼迫している。周辺はまだ余裕があるように思える。埋める場所も捨てる場所もないから、焼却灰を持ち出しているわけだ。それには何億というお金がかかる。もう少し進んだ話をすべき。

委員；そういうことから、共産党からの話を聞かせてほしいということだ。

事務局；共産党議員団からは、ごみ処理センター建設問題を解決するための提案をいただいた。これは次回委員会でお示しする予定だが、その内容は、公募について反対するものではないとし、項目が6つあって、『希望する事項は抽象的でなくより具体的に明らかにすること』『これまでの候補地は地域間で賛否両立の対決が起こってきました。こうした経過などを踏まえて、旧津山市内の従来からの候補地は除外すること』などとなっている。

委員；私が聞いたのは、共産党が場所を事務局へ提案したように聞いたのだが。

事務局；そういうことはございません。提案はこの内容である。

委員；それではもういいです。

委員長；10件の問い合わせについて、どのような問い合わせか。

事務局；申請方法とか応募要件について等だ。

委員；自治体からの問い合わせはあるか。

事務局；多くが地元の方で自治体からの問い合わせはない。自治体には申請書等を窓口設置している。

委員；公募を始めてどれくらい経過しているか。

事務局；1ヶ月半。9月15日からだ。

委員；心配ではないか。

事務局；心配だが、複数回お尋ねの方もおり、申請していただけるものと大きな期待を持っている。

委員；応募については出ると思う。私の周辺では、応募が決定したというような話がある。問い合わせが10件もあることは大変なこと。その中で何件かは出るという感じは受けている。最終的に申請するには大変な作業になるかと思うが、地域の方々にとってはそれが心配だ。

委員；用地のエリアをもっと絞り込んでどうか。

委員長；委員会としては、まずは公募であり、今はいろんなところから出していただきたい。エリアについては一切制限をしない。出していただいた中からこの委員会の中で絞り込んでいく。

委員；選定要件を決定する上で、例えば《%》で出されているが数量はいくらか、それぞれの地域の排出量はいくらか。要は運搬車両がどの程度の距離を走るのか、それも評価の基準になる。そのためにも基礎資料として勉強しておきたい。手元の資料は年間量データと日量データが混在しており比較対照しづらい。基準になる単位を下にしたデータをいただきたい。

委員；そういう考えもあるが、人口を考えたらどこが多いかは誰でも分かると思う。

委員長；今の委員の質問については、データとしては出来るだけわかりやすく整理していただければと思う。さらに言えば、H14年まででなく、今ある新しいデータを出来るだけ付け加えていただき、基本的には情報はどんどん開示する方向で進めていくのが良いかと思う。これから選定要件が非常に重要な問題になるので、今のデータについてご了解いただければ、次回は選定要件の審議に入っていきたい。要件については量的にも多いことから、正副委員長と事務局とでたたき台のたたき台を考え、次回みなさんにお示ししたいがどうか。

一同；(よろしい)

委員長；データについては出来るだけお願いします。次回は選定要件について案を示すので、みなさんの意見を伺いたい。最終的には公募締め切り後、その要件に基づいて評価することになる。

委員；資料2『総合ごみ処理センター候補地の経過』について説明をお願いします。

事務局；経過については、これまでとりくんできた内容を記載している【資料2説明】。

委員長；以上で、本日の協議事項を終了する。

事務局；次回は11月17日(金)午後1時30分から開催する。本日はありがとうございました。

以上(3:11終了)